

平成27年度 第7回ふるさと元気懇談会 会議録（要旨）
 テーマ 宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略より
 “安定した雇用を創出～環境エネルギー産業の育成・振興～”

【日 時】	平成 28 年 2 月 27 日（土） 9 時 30 分 ～ 11 時 30 分
【場 所】	新川ふれあいセンター 2 階大会議室
【出席者】	○久保田市長 ○宇部志立市民大学環境学部OB会 22名 ○市民環境部次長 ○環境政策課長 ○事務局（広報・シティセールス部広聴課、市民環境部）
【市 民】	参加者 15人
【概 要】	1 開会、進行説明 2 宇部志立市民大学環境学部OB会 会長挨拶 3 宇部志立市民大学環境学部OB会 参加者自己紹介 4 市長及び担当課紹介 5 市長による市政説明 「宇部市まち・ひと・しごと創生総合戦略」における「安定した 雇用を創出」のうち、環境・エネルギー分野への取り組みを説明 6 意見交換 7 閉会
意見交換	
【OB会会員】	<ul style="list-style-type: none"> ・宇部市まちなか環境学習館「銀天エコプラザ」で開催された環境サロンにおいて、環境省の方から「持続可能な地域づくりには人材育成が必要」という話があった。自分も里山再生に取り組んでいるので、その点について痛感した。 ・小野地区でオリーブを栽培して6次産業化を進めている。山口県立大学の准教授や学生にも協力していただいている。オリーブ栽培で歴史のある小豆島では従業員が200人もおり、オリーブ製品が数千円で販売されるとともに、葉も売られている。田舎でも人や仕事の創生ができると思う。
【市 長】	<ul style="list-style-type: none"> ・本市では戦後、お茶やみかん栽培に力を入れ産業も盛んになったが、オリーブ栽培にも地形が適しており、寒冷地にあった品種もあると聞いている。食べるだけでなく、健康飲料にも加工ができるのではないか。ときわ公園の温室でもオリーブを植えていくなど、6次産業化を進めていきたい。

【OB会会員】

- ・若者がいることは、地域の活性化につながる。宇部市には、山口大学工学部、医学部、フロンティア大学などがあり、学園都市と言ってよい。一方、地方紙によると、県内大学の卒業生のうち、県内に就職する学生は全体の33%で3人に1人とあった。
- ・山口大学学長であった広中平祐氏は、講演のなかで「地元の人が地元の大学に進学することが重要」と言われていた。経営者としては、子どもに家業を継いでもらいたいが、学生のと看だけとは東京の大学に行かせると、結局は就職も向こうでしてしまい帰ってこないことになるとのこと。また、山口大学の学生のうち、県内出身者は28%しかいないとも聞いた。
- ・産学官民で今日の発展をもたらした宇部市で、大学生を呼び込み、市内で就職してもらえるように新しい取組を期待する。

【市長】

- ・若い人たちにもっと本市の魅力を知ってもらいたい。
- ・現在、中心市街地の再生について様々な立場や視点から意見交換を行う「まちなか再生ミーティング」を始めたところである。参加している学生たちから、中心市街地について「まちがおもしろくない」「行きたい店がないので、まちなかに行きたくならない」「アルバイトで行くぐらい」との率直な意見が出されていた。このような意見に対して、年配の方からは、厳しい反論があった。高齢者にとって暮らしやすいまちは、若い人にとっても暮らしやすいまちであると思うので、いろんな年代の人たちが議論しあえば共通項を見いだせるはず。
- ・課題は出尽くしているので、どのように対処していくのか、急いで対応していかなければいけない。
- ・全国各地で人口が減少して若者を取りあっている。キャンペーンだけでなく、メリットを具体的に示す必要がある。

【OB会会員】

- ・万倉地区で友人が味噌づくりをしていたが、昨年、工場が閉鎖された。地元の米や大豆を使用し、無添加でとても美味しく、安心安全なものだった。精米として基準に満たない小米や前年の米を材料にして無駄なく作られていた。閉鎖の原因は保健所の許可がとれなくなったことによると聞いた。
- ・味噌づくりは後継者問題もあるが、施設が駄目になったから廃業というのでは残念でならない。市財政が厳しいことは理解しているが支援していただくことはできないのか。厚南地区でも味噌づくりをされている、宇部市の特産として、働き場所の確保として取り組んでももらえないか。

【市長】

- ・味噌づくりをする地域が市内にどのくらいあるのか、集約はできないのか、調査してみたい。厚南や西岐波でも作られている。副業ではなく、生業として考えていければよい。
- ・タケノコの事例もある。工場は現在フル稼働するまでになっている。良いタケノコを収穫するには良い竹が必要であり、竹林の再生も図られる。食用に適さない竹はバイオ発電に利用するなど、全部仕事につながり、経済の活性化につながる。更にブランド化させていきたい。生産性を上げることも大事であり、一人ひとりが多様性をもつことで豊かな社会にもつなげていけると思う。

【OB会会員】

- ・宇部市は気候も温暖で、災害も比較的少ない。すばらしい歴史もあり、こんなにいいところはない。外国から来宇された方からも感動の声を耳にする。
- ・ときわ公園は、まちなかにありながら天然の林を有しており、学者の方も高く評価されている。しかし、宇部市民は宇部市のすばらしさに気づいていないし、市はPR不足だと感じる。

【市長】

- ・従来、市からの情報発信といえばHPや広報だけだった。また、各部署で情報発信を行っていたため、イベントの日程が重複するなどしていた。こんなことは民間ではありえず、広報担当部署の一元化により広報の仕組みを変えるため、広報・シティセールス部を設置した。
- ・今は、情報内容の調整や戦略的な情報発信に取り組んでいるところであり、先日も、NHKの朝のテレビ番組で本市のことが全国放映された。
- ・良いものがあっても発信しないと意味がないし、発信することと、届いていることは違うことをさらに徹底していきたい。

【OB会会員】

- ・このOB会に限らず、こういう集まりに若い人の参加が少ない。ワクワク感を創出することが参加を促すと思う。そこで得た情報から、若者の起業への意欲も生じてくる。

【市長】

- ・若い人や大学の先生、アクティブシニアなどが、ディスカッションをし、運営にもかかわっていく多世代交流施設として若者センター（仮称）を作る予定である。
- ・中心市街地におけるエリアマネジメント等を行うまちづくり会社の設立のため、平成28年度予算に計上した。今後、ビジネス化し、収益が得られるもの

にしていきたい。

【OB会会員】

- ・高齢化が進行しており、人口構造は逆ピラミット型となっている。高齢者はいかに健康に生きるかを考えなくてはならない。私は医療費を使わないように努力している。私の地域ではゲームの日をつくり、地域の人々と1日数時間の交流をしている。

【市 長】

- ・高齢者だけでなく、乳幼児をもつ世帯などの予防医療にも力を入れている。最たるものは健康診断。しかし、受診率は、いまだ低い。検診結果を見るのは怖いと思う方もいるかもしれないが、疾病のステージが進むほど治療も難しくなる。啓発により受診率を高めていきたい。元気で長生きはみんなの願いであると思う。